

Q「若く新しい観客に映画の魅力を伝えるために5本の“ドキュメンタリー”を観せるとしたら？」
アンケートに協力いただいた18人の映画作家たち

入江悠／小川紗良／小田香／草野なつか／小森はるか／島田隆一／白石晃士／瀬田なつき／想田和弘
富田克也／広瀬奈々子／深田晃司／藤元明緒／甫木元空／松林要樹／三宅唱／山中瑠子／横浜聰子
(五十音順・敬称略)

それぞれの回答と選んだ理由を公式サイトにて掲載中！ →



SCHEDULE

全日18:50～

10月22日(土)	『書かれた顔』★	11月2日(水)	『1000年刻みの日時計
10月23日(日)	『物語る私たち』		牧野村物語』
10月24日(月)	『ルイジアナ物語』	11月3日(木・祝)	『SELF AND OTHERS』
10月25日(火)	『セザンヌ』	11月4日(金)	『人間ピラミッド』
10月26日(水)	『SELF AND OTHERS』★	11月5日(土)	『ルイジアナ物語』
10月27日(木)	『1000年刻みの日時計 牧野村物語』	11月6日(日)	『1000年刻みの日時計 牧野村物語』
10月28日(金)	『物語る私たち』	11月7日(月)	『セザンヌ』
10月29日(土)	『人間ピラミッド』	11月8日(火)	『書かれた顔』
10月30日(日)	『セザンヌ』	11月9日(水)	『人間ピラミッド』
10月31日(月)	『物語る私たち』	11月10日(木)	『SELF AND OTHERS』
11月1日(火)	『ルイジアナ物語』	11月11日(金)	『物語る私たち』

★トークショー開催！

10/22(土)『書かれた顔』上映後【ゲスト:甫木元空(映画監督)×須藤健太郎(映画批評家)】
10/26(水)『SELF AND OTHERS』上映後【ゲスト:草野なつか(映画作家)×小森はるか(映像作家)】

開催劇場

東京
ユーロスペース
EUROSPACE
03-3461-0211



10/22(土)
11/11(金)

その他劇場

愛知 名古屋シネマテーク (052-733-3959) 11/12(土) - 11/25(金)

大阪 シネ・ヌーヴォ (06-1416) 11/3(木) - 11/15(火)

京都 京都シネマ (075-4723) 11/11(金) - 11/24(木)

鳥取 ジグシアター 12/3(土) - 12/9(金)

参加料金

1プログラム

30歳以下 1,200円(税込)、ほか一般 1,500円(税込)

A GUIDE TO CONTEMPORARY ART HOUSE



巡回上映

現代アートハウス入門 ドキュメンタリーの誘惑



2022年10月22日(土)よりユーロスペースほかにて順次開催

企画・運営:東風 企画協力:ユーロスペース

協力:アテネ・フランセ文化センター BELVA Film National Film Board of Canada

技術協力・予告編制作:restafilms WEB制作:坂元純(月光堂) デザイン:loneliness books

AF2 文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業

www.arthouse-guide.jp fb.com/arthouseguide [@arthouseguide](https://twitter.com/arthouseguide) [@arthouseguide](https://instagram.com/arthouseguide)

gnome ユーロスペース
TOFOO

現代アートハウス入門

ドキュメンタリーの誘惑

Introduction

アートルウスへようこそ

1970年代から今日まで続く日本の「アートハウス」は、ミニシアターという呼称で親しまれてきました。そこは世界中の映画と刺激をもとめる観客とが出会う場所であり、多様な映画体験によって、未来の映画作家だけでなく、さまざまなアーティストを育む文化的ビオトープとしての役割を担ってきました。「アートハウス」の暗闇でスクリーンが反射する光を浴びることは、多かれ少なかれ——私たちの生き方を変えてしまう体験なのです。

「現代アートハウス入門」は、「アートハウス」に新しい観客を呼び込むため、コロナ禍真っ只中の2021年にスタートしました。その第三弾となる巡回上映「現代アートハウス入門 ドキュメンタリーの誘惑」では「ドキュメンタリーと呼ばれる方法で作られた映画」にフォーカスします。18名の気鋭の映画作家に「若く新しい観客に映画の魅力を伝えるために5本の“ドキュメンタリー”を観せるとしたら?」というアンケートをとり、そこでがった作品群から選りすぐりの7本でプログラムを組みました。古典的な名作からコンテンポラリーな傑作まで、ぜひこの機会に「ドキュメンタリー」の多様な方法と視点の面白さをご堪能ください。



『ルイジアナ物語』

Louisiana Story

監督:ロバート・フラハティ
1948年 | アメリカ | 78分

ルイジアナの広大な湿地帯で両親と暮らす少年アレクサンダー。自然と野生動物に囲まれた生活は、父親が油田掘削の許可書にサインしたことで大きく変わっていく…。『極北のナヌーク』『モアナ』などで知られるロバート・フラハティ監督による物語映画として世界映画史にその名を刻む本作だが、もとは石油会社のPR映画だった。野生のワニやアライグマなど“ドキュメンタリーバリュー”もたっぷり。

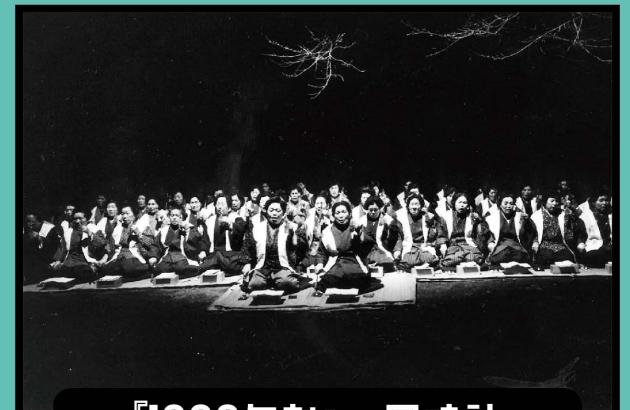


『人間ピラミッド』

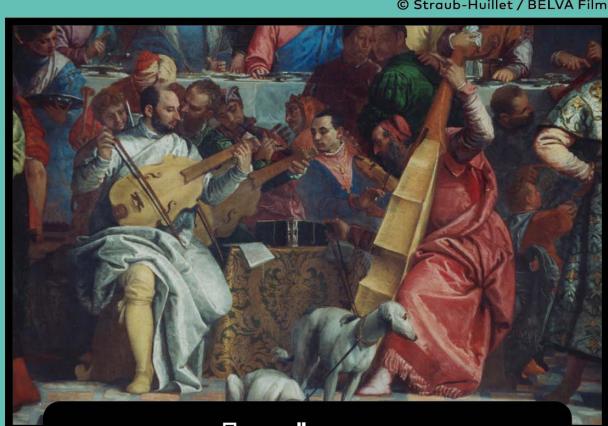
La Pyramide Humaine

監督:ジャン・ルーシュ
1961年 | フランス | 90分

舞台はコートジボワールのアビジャン。地元の高校生の人種差別問題に気づいた映像人類学者のジャン・ルーシュは、この問題を主題に16ミリ映画を撮ることを思いつく。生徒たちは黒人と白人の間の新たな関係を通して生まれる友情関係、愛情関係についての「フィクション」に自分自身の役を演じながら参加するのだが…。エリック・ロメールやジャン=リュック・ゴダールも絶賛したルーシュの代表作の1本。

『1000年刻みの日時計
牧野村物語』監督:小川紳介
1986年 | 日本 | 222分

三里塚から山形・牧野へ移住し、田畠を耕しながら映画制作を続けた小川プロの13年の集大成。稻の生殖の営みや水田のなかの考古物の発掘など科学的アプローチに加え、村に何世代にもわたって語り継がれる口承の物語を、土方翼、宮下順子、田村高廣ら職業俳優とともに、牧野村の人びとが“ドラマ”として演じてみせる。1000年という歴史と牧野の風土が編みこまれた、映画史上類を見ない傑作。



『セザンヌ』

Cézanne

監督:ジャン=マリー・ストローブ
ダニエル・ユイレ
1989年 | フランス | 50分

『書かれた顔』

The Written Face

4Kレストア版
日本初上映監督:ダニエル・シュミット
1995年 | スイス、日本 | 89分

詩人ジョアシャン・ガスケによる評伝「セザンヌ」に記された空想的な対話の朗読に重ねて、セザンヌゆかりの土地やセザンヌの絵画が映し出される。実物の絵画を直接撮影している点では記録映画であり、ガスケによって虚構化されたセザンヌという人物の言葉を劇的に再構化している点では劇映画にも近い。ポール・セザンヌの過激な絵画観に、過激な映画作家ストローブ=ユイレが肉迫する。



『SELF AND OTHERS』

監督:佐藤真
2000年 | 日本 | 53分

歌舞伎界で当代一の人気を誇る女形、坂東玉三郎。「鶯娘」「積恋雪闇扇」といった舞台や、芸者に扮した彼を2人の男が奪い合う劇「黄昏芸者情話」が挿入され、玉三郎の秘密へと観る者を誘う。俳優の杉村春子や日本舞踊の武原はんの談話、現代舞踏家の大野一雄の舞いなども。現実と虚構さえもすり抜けていくシュミットのスイス・日本合作となった本作では、青山真治が助監督を務めた。



『物語る私たち』

Stories We Tell

監督:サラ・ポーリー
2012年 | カナダ | 108分

太陽みたいに明るく無邪気だった母ダイアン。彼女が亡くなったとき、末っ子のサラはまだ11歳だった。「サラだけがパパに似てない」、ポーリー家おきまりのジョークにサラは少し不安になる。母の人生の真実を探り出そうとカメラを向けると、みんなの口からあふれ出したのは彼女の知られざる恋について——。俳優で映画監督のサラ・ポーリーが、自身の出生の秘密をウィットとユーモアをこめて描く。